67 期リレーエッセイ

先が見えないからこそ，今できる一つ一つのことを大切に

会員　稲垣 喜人

1　リレーエッセイ

本稿執筆に際し，過去のリレーエッセイを読むため，LIBRA ON LINE を見てみたところ，このリレーエッセイの企画は，遅くとも58期の方（LIBRA2006年1月号）から始まっているようである。すなわち，10年もの長きにわたるリレーが新人弁護士たちの間で繋がれてきたことになる。本稿も10年（以上）後までインターネット上に公開されているかもしれないと考えると，迂闊な記載ができず，なかなか筆が進まないのではあるが，かえって，今思っていることを飾らずに書いておいた方が，後になって正確に自身を回顧することができるように思われるため，そのようにさせていただく。

2　仕事以前の話

本稿執筆時（2016年1月）において，私が弁護士になってから約1年が経過しようとしている。この1年の間に転職や引越しをしたこともあり，弁護士業そのものではない部分が非常に慌ただしく，基本的な生活が成り立っていてこそ初めて充実した仕事ができるのだと強く感じるようになった。あたりまえの生活が送れるのは家族，友人など私を支えてくれる人がいるおかげであることを再認識し，仕事ができることのありがたみを噛みしめている。

3　心身の健康

上記とも若干関連するが，意識して心身の健康を図る必要性についても痛感した。労働分野を得意とする弁護士が過労で倒れるという冗談めいた本当の話を身近で聞いたこともあるし，また，私自身，一時期，（弁護士業と関係ない原因で）体重が10キログラム近く落ちてしまったからである（もっとも，現在は，事務所に置かれているおやつの誘惑に負けずに体重増加を回避することに苦心している）。

4　仕事面

肝心の業務の方はといえば，ある意味では新人らしく，まったく右も左もわからず，胃と頭を悩ませる日々であった（この点は，現在も変わっていないかもしれない）。しかし，現在所属する事務所には，わからないことがあれば気軽に相談できる組織文化があるため，人間関係の面では恵まれていると感じている。チームで案件に取り組むことも多く，他の弁護士の働きぶりを学ぶこともできている。

また，債権回収案件や相続案件などを主軸に，満遍なくとまではいえないものの幅のある案件に触れることができたと思うので，これからもさらに多くの経験を積んでいきたい。

5　剣道

悔やまれるのは，上記のとおり慌ただしい1年であったため，趣味の剣道がほぼできなかったことだ。月1回開かれる東京三弁護士会剣友会（略して「東三弁剣友会」）という弁護士主体の団体の稽古に参加するのがやっとであった。東三弁剣友会は範士八段の先生にご指導いただける貴重な機会であり，いかに業務を効率化して稽古の時間を捻出するかとともに，いかに1回1回の稽古の質を高めるかが今後の課題である。

6　これから

とりとめもおもしろみもない話になってしまったが，自分が現在思うところは広汎に述べられたと思う。

転職など，この1年間でさえ予期せぬ出来事だらけだったので，たとえば10年後に，自分がどのようになっているかなど想像もつかない。しかし，だからこそ，今できることを一つ一つ大切にこなしていきたい。